

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	3071300432
法人名	社会福祉法人 愛光園
事業所名	愛光園グループホーム
訪問調査日	平成21年 11月 11日
評価確定日	平成21年 12月 9日
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま

#### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

#### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3071300432		
法人名	社会福祉法人 愛光園		
事業所名	愛光園グループホーム		
所在地	和歌山県伊都郡かつらぎ町佐野1401の2 (電話)0736-23-3830		
評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52ハラダビル2F		
訪問調査日	平成21年 11月 11日	評価確定日	平成21年 12月 9日

## 【情報提供票より】(平成21年10月23日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 5 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	1 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7 人

## (2)建物概要

建物構造	耐火構造 造り		
	4 階建ての 階 ~ 4 階部分		

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	円	その他の経費(月額)	9,900 円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

## 【情報提供票より】(平成21年10月23日事業所記入)

利用者人数	9 名	1 名	女性	8 名
要介護1	0 名	要介護2	6 名	
要介護3	1 名	要介護4	2 名	
要介護5	0 名	要支援2	0 名	
年齢	平均 84 歳	最低 78 歳	最高	94 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	上田神経科クリニック、上田内科、かつらぎ町歯科医師会
---------	----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特別養護老人ホーム愛光園の施設の建物の4階にあるグループホームである。ホームから見える景色は田畑が広がり、南には高野の山々がそびえ、四季の移ろいを感じられる。各居室と廊下の間に一畳ほどの区切られた洗面スペースがあり、椅子が置かれ入居者の落ち着き場所となっている。ホーム内では入居者が自由にゆったり、ありのままの暮らしができるよう配慮したケアが行なわれており、前回の評価後、サービスの向上を図り活用していくための記録の方法の改善や、地域との関りを多くもつ取り組みに力を入れている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果を活かして、今年度は記録を残しケアに活用していくこと、地域ケア会議へ積極的に参加、地域との連携に努めることなどの改善を行ってきている。地域密着型という理念の構築が遅れており運営者、管理者、職員間で意識に差がみられる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と一部職員は自己評価や外部評価の意義を理解し、自己評価は全職員が関わって担当を決め作成に取り組んでいるが、職員全体での意識としては温度差も生じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は地域内にある同一法人の「愛光園第2グループホーム」と合同で6ヶ月に一度開催されており、今年は地域ケア会議の中で行われた。内容はグループホーム紹介や活動報告が中心で、地域との交流やサービスの向上には十分活かされてはいない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の来訪時には家族の声を聞こうと個別に声をかけ、家族会も開催して意見を出せる場としているが、意見、要望はあまり出てこない。1階のエレベーター前には意見箱も設置しているが、ほとんど活用されていない。家族が不安を抱かないように、3ヶ月に一回、ホームの便りを発行し、便りとともに入居者の金銭管理状況、健康状態、個別の写真と簡単な近況報告を送っている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ここしばらくはインフルエンザへの感染を危惧して入居者の外出は行われていない。地域の高齢者サロンや地区の秋祭り・産業祭り等地域の行事に参加する機会は月1~2回あり、職員と入居者数名が参加している。ホームの外を入居者と職員が散歩していると、住民から野菜をもらったり声をかけられたりすることが多かったが、周辺の住民がホームを訪れることはほとんどない。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念である「自然体、自由に、ゆったり、ありのままに」をつくりあげているが、やや抽象的である。管理者を中心に職員も地域との交流を大切にしているが、地域密着型サービスの柱である「地域で暮らし続ける」「地域との支え合い」はその理念に盛り込まれていない。		地域とのつながりを意識付けするために、より具体的な理念を盛り込むことを期待する。また地域に出る際、自然体という観点を踏まえて、入居者とともにいる職員の名前の入った制服ついて、職員間での話し合いが望まれる。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は職員が意識しやすいように、リビング2ヶ所と玄関の見やすい位置に手書きのものが大きく掲げられている。管理者は地域との交流やその人らしく暮らすことの大切さを機会あるごとに全職員に伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設内のグループホームは近隣住民に分かりにくく、ホームへの住民の訪問は難しい状況にあるが、管理者は地域との交流を最大のテーマと考え、何か地域で行事があれば努めて出かけて行くことを実践している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全体での意識には温度差がみられるが、管理者と一部職員は自己評価や外部評価の意義を理解しており、自己評価は分担し全職員が作成に取り組んだ。前回の外部評価を活かし、今年度は記録を書くことと地域ケア会議への参加を増やすなど、積極的に改善を行っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	同一法人の別のグループホームと合同で、家族兼役場の職員や民生委員等をメンバーに6ヶ月に1回開催されており、内容はグループホーム紹介や活動報告が主である。今までは別のグループホームを開催場所としていたが、今年度の開催は役場での地域ケア会議の中で実施されている。		地域との関係性の構築には2ヶ月に一度の開催が望ましい。お茶出しの役わり等から自然な形で入居者も会議に加わるなど、会議は形式にとらわれず柔軟に様々なやり方を試してほしい。同一法人のグループホームと合同開催の他に単独開催も検討し、ホームに行政や地域の人を訪れ現状を知ってもらおう機会となることに期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月一回、地域ケア会議が町役場で開催され、管理者が参加している。各関係機関と意見交換し知識・情報を得ることで、地域内でのグループホームのあり方・役割を再確認する機会となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時にはできるだけ入居者の様子を伝えるようにしている。3ヶ月に一度、ホームの便りを発行しており、便りとともに入居者の健康状態や金銭管理の状況、入居者ごとの個別の写真と簡単な近況報告を家族に送っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月毎に家族会をホーム内で開催して家族の意見をサービスに活かそうとしているが意見や要望はあまり出されない。家族の来訪時に家族の意見を聞こうとしているがやはり意見等はあまり聞かれない。ホーム1階のエレベーター前に意見箱を置いているが、ほとんど意見は入っていない。		家族の立場は職員に対して、どうしても世話になっているという発想になりやすい現実がある。その点をふまえ、より自由に家族に意見を言ってもらえる一工夫を行うことに期待したい。具体的には、家族会を行う前に、事前にアンケート用紙等を郵送し、匿名で回収し、家族会での議事の1つにすることが考えられる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	今年度は異動が1回のみで、退職者はいなかった。なじみの関係が継続できるよう、職員の異動は最小限になるよう配慮されている。職員の交代に対しては入居者に伝えたくて、自然に受け入れられるようにサポートしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	正規の職員は勤務扱いで必要とされる外部の研修を受けることができるが、ホーム内での正職員は管理者のみである。専従職員であっても雇用形態の違いから研修機会は確保できておらず、内部でのミーティングが主であるため管理者との意思疎通が図られにくい面がみられる。		特定の正職員のみが研修を受けるという体制は、その人が退職・異動すると全体の方向性を失うリスクを抱えている。非正規職員の大半は2級ヘルパーのみの有資格者であり研修の経験が少ない。経験や勤のみに頼ったケアにならないために、全職員が実践者研修等に参加できる機会を持つことがことが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互の見学、訪問もなく、職員が同業者と交流する機会はほとんどないが、管理者のみ、グループホーム関連の研修で他のグループホーム関係者と出会える場があり、そこで意見交換して得た情報を、ミーティングの場で報告している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人の特別養護老人ホームで短期入所を利用しながら、グループホームを見学し、慣れてから利用になる入居者が多い。家から直接入居となると「帰りたい」という人もいるが、過去の生活歴をもとに、その人のペースを守り、生活リズムを崩さないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の上手な入居者からはその作り方を、農業をしていた入居者からは野菜の栽培方法を、編み物の得意な人からは、編み方を職員が教えてもらうこともあるが、介護する側、される側といった立場の隔たりが感じられる。		同一法人の特別養護老人ホームの施設内に併設しているためか施設とのケアの違いが明確でなく、画一的な制服を職員が着用していることも職員と入居者の距離感につながる要因と考えられる。制服には力があるということ、ホームの理念が自然体であるということを念頭に再考に向けての話し合いが望まれる。
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	余暇時間には、歌が好きな入居者には歌を歌ってもらったり、塗り絵が好きな入居者には塗り絵をしてもらったりと思いのことをしてもらっているが、職員側からみた本人像への対応となっている傾向がみられる。		職員からみた本人像へ対応するのではなく、本人の立場に立った意向に目を向けたケアを行っていくことに期待したい。具体的には、ケア記録を点検・活用することで、その背景を究明し、その人らしい暮らしに結び付けていくことが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者毎に担当職員を定めており、担当職員の意見を中心に職員間で計画作成時、意見やアイデアを出しあって作成しているが、本人や家族からの意向や意見はあまり盛り込まれていない。		本人本位の介護計画の考え方を再認識して、ケア側からの見方のみにとらわれることなく、今後、より本人・家族の意見・考え方が反映された計画が作成されることに期待したい。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画の見直しは概ね3ヶ月毎に行っている。毎月行っているモニタリングを通じ、職員が接する中で分かってきたことを計画に盛り込んでいくよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の病状が進んでも、家族・主治医の条件があれば、できる限りホームで生活できるように配慮しているが、同一法人の特別養護老人ホームが併設されているので、入所の方向も開かれている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居と同時に、原則として法人の医療機関をかかりつけ医とすることになっているが、これまでのかかりつけ医を本人が希望すれば受診することができる。その送迎は、原則、家族に行ってもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、「看取りに関する指針」について家族に説明・同意がなされている。看取の経験のない職員が多く、ホーム内で看取りを行った実績もないので不安を持つ職員もいるが、事業所としては看取の方針がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者・職員は入居者に日常生活の中でさりげないトイレ誘導を心掛けた声かけを行っている。個人の記録物は「スタッフルーム」にて適切に管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事などホームの基本的な一日の流れはあるが、それにとらわれることなく、入居者が自由に過ごせるように支援している。入浴を拒否する入居者に対しても1週間に1回は入浴できるように支援しているが強制的にならないように配慮している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士がたてた献立メニューをベースに、食材を購入し、入居者と職員と一緒に調理し、皆と一緒に食べている。畑でとれた食材を使用することもある。入居者ごとに、「マイ箸」・「マイコップ」を使用している。後片づけは入居者・職員間でも役割が決まり、てきぱきと行われている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は通常は午後から実施しているが、本人が希望すれば朝からでも毎日でも入浴できる。夜間の入浴は、職員が1人になるため、実施されていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や片づけには役割を持って入居者が加わっている。塗り絵・手芸など個人の趣味に合わせて楽しみごとへの支援がなされており、近くの畑で職員と一緒に野菜を栽培する入居者もいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩等の外出は本人の希望にできるだけ添えるよう個別に配慮している。インフルエンザの流行で日常行っていた食材の買い出しは現在自粛しているが、流行が落ち着けば再開予定である。天候が良い日は屋上で食事やおやつを食べる機会も設け外気に触れることができるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は鍵をかけることの弊害を理解しているが、以前エレベータを使用して外へ出た入居者がおり、その後、安全のためへの法人の方針で1階に通じるエレベーターと非常階段の扉には鍵がかけられている。		ホームが4階に位置していることから、1～3階の他の部門と連携し調整の上見守りを行えば、鍵をかけなくても安全な環境整備は十分実現可能であると思われる。人権にかかわることであり、施設も身体拘束であるという認識を持ち、鍵をかけないケアに取り組むことに期待する。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署より避難訓練を受けており、管理者・職員は、火災時の避難経路を把握している。備蓄に水がなかったことから、その準備を今後、考えていく予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	施設の管理栄養士の献立をベースにして、食事は毎食後記録して栄養バランスに配慮している。水分摂取は入居者が1日1取することを目標にして、脱水を起こしやすい入居者には不足しないよう特に気を付けている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間部には季節感が感じられる工夫はあまりないが、リビングの窓からは周囲の山々や田畑がよく見え、季節の移り変わりを感じることができる。居間には畳の空間もあり、廊下には椅子・ソファが置かれていて、気に入った者と話しをしたい時などに自由に使用できるスペースが確保されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋ごとにクローゼットとベッド、トイレが備え付けられている。居室は本人の希望する物や思い思いの物を置くことが自由で、そこに入居者の個性がうかがえる。管理者の提案で、布団等を意図的に業者のものから個人の馴染みのものを使用するようにしたこと、部屋の雰囲気にも特徴がでている。		